

地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：大阪府立大学（代表者：奥野 武俊）

課題の概要

モデル部局（専攻）での継続的なテニュアトラック制度を構築し、公立大学や地域の大学のテニュアトラック制度の先導的原型モデルの確立を目標とする。国際公募により採用した若手研究者の自立的な研究環境の整備として、研究資金・研究スペースの措置、共通先端研究機器の重点導入を行う。任期終了時、採用員数の 7 割を目途に、テニュア准教授、特に優秀な 1 割についてテニュア教授に昇進の道を拓き、希望の部局に所属させ、健全な競争とモチベーションを確保する。年次進行でテニュアトラック教員を採用し、課題実施期間終了後も 5 年間はテニュアトラック教員を 10 名として運用する。テニュアトラック制度維持には、運営費交付金と間接経費を充て、研究成果を挙げることによる次段階へのキャリアアップ・昇格パスをサポートする。

(1) 総合評価（所期の計画を超えた取組が行われている）

総括責任者の卓越したリーダーシップの下、課題運営のための優れた組織体制を構築し、テニュアトラック制の定着に向け所期の計画を超えた取組が行われていることは高く評価できる。ステアリング委員会が適切に機能し、所期の計画にはなかった外部評価委員会において第三者の意見を取り入れながら人材養成システム改革の推進を図っている。競争の激しいナノ科学分野で優秀かつ多様なテニュアトラック教員を採用し世界最先端の研究を進めつつあり、実施期間終了後も人材養成システム改革が着実に継続・発展することが期待できる。今後、学長等が管理するテニュアポストを有効に活用することによって、テニュア審査に合格したテニュアトラック教員全員を機関のテニュアポストに採用することを期待する。

<総合評価：S>

(2) 個別評価

①国際公募・選考・業績評価

国際公募を行うに当たり国際的慣例に精通した専門機関による英文募集要項の法的チェックを行っていること及び採用したテニュアトラック教員のライフイベントへの措置を明文化していることは、我が国におけるテニュアトラック制の普及・定着の範となるものであり、高く評価できる。所期の計画を 1 名上回るテニュアトラック教員を採用していること及び採用者の 40%が女性研究者であるという高い採用割合となっており、特に応募書類の内容を詳細化し、板書講義（Chalk Talk）の導入等特色ある審査・選考方法によって応募者のレベルアップを図ったことが多様かつ優秀な人材の採用につながっていると高く評価できる。今後、ナノ科学・材料人材育成拠点が世界的研究拠点として認識され、また、拠点内に国際的環境を醸成するために、外国籍研究者を採用することを期待する。

②人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に基づく実施内容・実績）

所期の計画を上回る研究スペースの確保、自主経費も充当した的確かつ多数の共通研究設備の整備とその国際公募要領への提示、拠点事務局体制の強化等は高く評価できる。さらに、テニュアトラック教員のライフイベントへの対応、教育能力育成のための教育組織との連携等きめ細か

な施策を盛り込んだ人材養成システム改革が推進されており、その継続的発展を期待する。なお今後は、テニユアトラック教員の科学者倫理の涵養及びそのテニユア審査基準への組み込み等を期待する。

③人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に対するマネジメント）

採用・審査・評価に係る組織とは別に、所期の計画にはなかった海外有識者も参画した外部評価委員会を設置し、その意見を基に PDCA サイクルによって課題の内容・運営の改善を図っていることは高く評価できる。また、総括責任者を始めとして機関執行部が必要な権限と責任を有しリーダーシップが発揮されており、このような体制が維持されることを期待する。さらに、学内外を対象とした拠点セミナー、サイエンスカフェ等の開催、Newsletter の発刊や本課題実施内容に関する各種報告書の刊行等広報活動も活発に実施されており、機関における人材養成システム改革推進の周知・理解とその着実な進展を期待する。

④実施期間終了までの進め方

本課題実施の中心である工学研究科に加え理学系研究科が参加したことにより、所期の計画を前倒しして取組が進められていることは高く評価できる。所期の計画を超えるテニユアトラック教員を採用したことに伴いテニユアポスト数を増加させたことは評価でき、全員がテニユア審査に合格した場合を想定して、学長等が管理するテニユアポストを柔軟に活用することを期待する。

⑤実施期間終了以降の継続性・発展性

実施期間中から所期の計画を上回るテニユアトラック教員を採用するとともに、本プログラムで推奨している高インセンティブ型テニユアトラック制に加えてキャリアパスの構築を目指した普及型テニユアトラック制を並列させることを計画し、テニユアトラック制を機関に定着させようとする構想は高く評価できる。

（3）評価結果

総合評価	国際公募・ 選考・ 業績評価	人材養成 システム改革 (制度設計に 基づく実施内 容・実績)	人材養成 システム改革 (制度設計に 対するマネジ メント)	実施期間終了 までの進め方	実施期間終了 以降の継続 性・発展性
S	s	s	s	s	s